産業競争力会議（第19回）後の
甘利経済再生担当大臣記者会見要旨

○ 日　時　：　平成２６年９月１８日（木）１５：２５～１５：４４
○ 場　所　：　中央合同庁舎８号館１階S101・S103会見室

１．冒頭発言

第19回目になります産業競争力会議が先程終了いたしました。その概要を申し上げます。

本日は「『日本再興戦略』改訂2014」策定後、初めての会議として、「産業競争力会議の今後の進め方」について議論を行いました。

まず、「日本再興戦略」、「『日本再興戦略』改訂 2014」、ＫＰＩの主な進捗状況、施策の主な実行状況について、事務局から説明いたしました。その内容についてはお手元の資料のとおりであります。

次に、「産業競争力会議の今後の進め方」について私から説明をいたしました。その概要を申し上げます。

まず、「実現する成長戦略」として、今後は、戦略で掲げた施策を確実に実行に移していくことが極めて重要であり、ＫＰＩの達成状況を把握していくことで、戦略の実行・管理を進めていく。

成長戦略の実行・実現を強力に推進していくために、産業競争力会議に「実行実現点検会合」を設置いたしまして、幾つかの重要テーマごとにＫＰＩレビュー及び施策の進捗状況を検討・確認してまいります。

ＫＰＩレビューでは、１１７あるＫＰＩのうちＢ区分となっているものを中心として、実施プランが確実に実行されているのか、実行できていないとすれば、何が足りないのかを検証し、施策の追加も含めた検討を進めてまいります。また、「進化する成長戦略」として、「生産性・収益力の向上」、「働き方・人材改革」、「海外市場の成長の取り込み」、「改革２０２０」などのテーマについて、ワーキンググループを設置して検討を深めていく。

これらの検討の成果については、年明けの「産業競争力の強化に関する実行計画」や「成長戦略進化のための今後の検討方針」、ひいては来年年央を目途に改訂する成長戦略に反映していく。

これらの説明を受け、民間議員から。

成長戦略の進化のためには、特区の活用と「改革２０２０」を進めることが重要。特区を進めることについて、地域との関係についても政権のリーダーシ

ップを期待したい。「改革２０２０」は国内改革、海外からのショーケースになるという２つの意味で重要である。レガシーを残すべく、WG の場でしっかり議論することが重要である。

同じく、民間議員から。
女性の活躍のためには、男性の働き方を変えることも重要であり、セットで議論する必要がある。
今後、団塊ジュニア世代は育児・介護等の制約を持って働くことが想定される。働き方を変え、家庭に時間を戻してもらえれば消費も増えてくる。

同じく、民間議員から。
KPI が相応に進捗していることは評価したい。ただし、KPI が達成された時に、マクロでどの程度定量的な効果があるのかを評価・算出すべきである。

続いて下村大臣から。
2020 年をオリンピック開催だけではなく、新たな成長に向かうための「ターゲットイヤー」としていきたい。こうした取り組みを進めることが、地方の創生にもつながると思う。

続いて小渕大臣から。
経産省としては、ベンチャーの促進等に加え、働き方改革にも取り組みたい。女性の起業を進めるには支援措置とあわせて、男性の働き方を変えていくことも必要である。経済界で働く女性をしっかり支援したい。

続いて有村大臣から。
規制改革会議では、産業競争力会議と連携して、引き続き、既得権益の岩盤を打ち破ることに取り組んでまいりたい。
女性の力は日本の最大の潜在力の１つであり、すべての女性が輝くことができるような取り組みを深めたい。

続いて麻生大臣から。
改訂成長戦略が公表された時は、海外投資家から高く評価されたが、最近、早期の改革の実行・実現に疑問を抱いていると聞いている。改革を迅速に進めるには本会議からメッセージを強く出すことが必要であり、各省に対して実行・実現を促すための司令塔としての機能を果たしてほしい。

続いて民間議員から。
経済構造や情報の流れが大きく変わってきており、こうした産業構造の大きな流れをしっかりと見定めていく必要がある。このため、IT やコーポレートガバナンスの取り組みを進めていくことが必要だ。新たな産業が起きる際には、規制が多いと成長を止めてしまう。消費者保護と産業活性化の両立を図ってもらいたい。

同じく民間議員から。
イノベーションナショナルシステムの確立は成長戦略の大きな柱である。着実な進捗をフォローアップしたい。今後最も重要なのはイノベーションの観点からの大学改革を進めること。真剣に考える人も増えており、今こそが好機である。産業競争力会議でも総合科学技術会議と連携して是非議論してほしい。

同じく民間議員から。
B に区分された KPI について、産業構造の変化も勘案しながら、本当に達成可能かどうか、どのようなアクションを取ればいいか、よく考えることが必要。特に、国際競争が激化している中では、競争相手をもっと知ることも必要だ。モノと IT、サービスを結び付けながら、富を生んでいく取り組みが必要である。

同じく民間議員から。
規制改革の実行・実現を効率的・効果的に進めていきたい。規制改革会議と産業競争力会議の連携については、医療・農業等の分野を中心に進めたい。また、地域の活性化や多様な働き方の実現のための規制改革にも取り組みたい。10 月にはホットラインを設け、地域活性化に資する規制改革を集中的に募集する。

同じく民間議員から。
新しい競争の時代の大前提はリアルタイムでの双方向の情報交換であるということ。一方、供給サイドである企業の取り組みが追い付いていないことが日本の成長の制約になっている。競争力会議では、日本全体の産業構造を変えていくような、大胆な議論をお願いしたい。

同じく民間議員から。
地域のテーマや「改革 2020」のテーマについては、関係会議とどのように連携していくかが課題。また、KPI レビューを進めていくことはよい取り組みであると評価する。

これらを受けまして、石破大臣から

創生本部の議論がスタートし、秋の国会にも法案を出したい。産業競争力会議とも連携し、人手不足の中でいかに地域の生産性を上げるかを考えていきたい。若者・女性・高齢者の声も拾っていきたい。

最後に、安倍総理から、次のようなご発言がありました。

これまでのアベノミクス 3 本の矢によって、デフレマインドを一掃し、経済の好循環が実現しつつある。安倍内閣は、これからも「経済再生」が最優先であり、今回の内閣は「実行実現内閣」。来る臨時国会では、地方創生、女性の活躍、中小企業等、成長戦略関連の法案を提出する予定である。

安倍内閣の成長戦略がこれまでの戦略と抜本的に違うのは、KPI という明確な指標を設定して、施策が確実に実行されているかを検証するメカニズムを持っていることである。

今回、産業競争力会議に「実行実現点検会合」を設置して、戦略の実行実現を具体的に追求する。また、成長戦略に終わりはない。成長戦略の進化に向けた検討も進める。

これまで産業競争力会議は歴史的な改革に取り組んできた。今後とも、新しいメンバーの下、日本経済再生の司令塔として、今までにないような、大胆な課題に挑戦していただきたい。

先ほど、テレビカメラが入っている中で、総理が「ファイナンシャル・タイムズ」と発言されたのは、「エコノミスト」の誤りです。

私からは以上です。

２．質疑応答

（問）産業競争力会議、まち・ひと・しごと本部、経済財政諮問会議、規制改革会議が動き出しましたが、それらの４つの会議の連携のあり方について、大臣がどのようなことを期待されているかについて、改めて教えてください。

（答）成長戦略の司令塔は産業競争力会議です。そこで、地方創生会議の中で、地域の振興に関しては、そのタマ込めも、産業競争力会議から行っていきたいと思っております。それを目的として、地方創生大臣にも産業競争力会議に入っていただきましたし、元産業競争力会議のメンバーも、地方創生会議の有識者に入っているわけです。

総合科学技術・イノベーション会議を真の司令塔にするということが、産業

競争力強化法の中にも入っています。総合科学技術・イノベーション会議のメンバーは学者が多いわけですから、制度設計や予算の在り方については、産業競争力会議でアシストしていく必要があると思います。また、同会議を中心に行っておりますイノベーション・ナショナルシステムの構築につきましては、具体的な設計並びにそれに基づいた実施体制をサポートするために、橋本議員に入っていただいております。

今般、再生本部の事務局体制を３次長体制から４次長体制に変えました。事務局次長が、財務省、内閣府、経産省で構成されていたのに加えて、文科省の義本審議官に入っていただき、４次長体制で取り組んでいきます。大学改革にしっかりメスを入れる必要がある関係から、この体制といたしました。

規制改革会議には、産業競争力会議からは、今まで岡議長が入っておられましたけれども、より規制改革と競争力会議との関係を強化しております。

そういう人の連携を通じて、しっかり関係各会議が連携して一つの目的に従って心合わせて進んでいけるように取り組みたいと思います。

（問）点検会合について、どれくらいの頻度で開くことを想定されていますか。また、進捗を確認した時に、今一つ思い通りに進んでいないということがあった場合には、競争力会議としてはどのように目標を進めますか。

（答）産業競争力強化法に基づき策定した実行計画の中に、61 の施策項目があります。その施策項目の進捗を管理するために 117 の KPI がございます。その施策ごとに、担当大臣が、一人の場合もありますが、複数記載されています。総理が、進捗状況を考慮して、施策項目を担当する大臣に指示をすることになっています。これは法律上そのような仕組みになっております。

その具体的作業として、実行実現点検会合で、しっかりレビューをしていきたいと思っております。私がその会議を主催しますが、総理の意を受けて、遅れているものについては具体的な総理指示をそこでも出していきたいと思っております。KPI によって、進捗状況を、毎年最低一回は確認して、進捗が思うように進んでいない場合には、その理由の開示を担当大臣に求めます。そのうえで、KPI の進捗が予定通りにいくための追加政策が何かということまで求めることができます。それでも達成ができない場合は、政策目標の設定自体に誤りがあるのかと、かなり詰められるということになります。

点検会合は、テーマが５つございますので、これらをすべてこなすために、月２回程度は開きたいと思っています。

（問）点検会合のメンバーは産業競争力会議と同じなのでしょうか。

（答）点検会合は、テーマごとに分けますから、そのテーマに関係する者が出

席します。大臣も、そのテーマを担当する大臣が出席するということになると思います。

（問）今までも農業 WG や医療 WG 等の WG がありましたが、そういうイメージのものでしょうか。
（答）点検会合を、5 つのグループに分けたいと思っております。メンバーは、御本人の希望がありますので、調整中です。

（問）再度の改訂版の再興戦略を年央目途に作っていくということで間違いないでしょうか。その場合、３巡目の再興戦略になるが、あまり簡単ではなさそうだと思います。その点に対する御決意をいただきたい。
（答）常に新たなものを求めるというよりも、今あるものの進捗管理が確実になされるように、しっかりフォローしたいと思っております。日本再興戦略の副題は、Japan is back だが、その１年後に作成した改訂版は、Japan is on track としています。アベノミクスが実際にこういう軌道を辿って実際に動いているんだということを内外の市場に知らせる必要があると思います。その中で、進化させるものについては、改訂版を出していきたいと考えます。